



名古屋市文化基金事業 ファン・デ・ナゴヤ美術展2019

NARRATIVISUAL:M

M氏の告白:矛盾を純粋培養するアイデンティティの病

2019年1月10日(木)~1月27日(日) | 9:30~19:00

名古屋市民ギャラリー矢田 第1展示室

Supported by Aichi University of Arts, Embassy of the Kingdom of the Netherlands

"The essence of the confession thing is the confession is impossible." Yukio Mishima

告白の本質は「告白は不可能だ」といふことだ

三島由紀夫: 仮面の告白に関するノートより

名古屋市文化基金事業 ファン・デ・ナゴヤ美術展2019

NARRATIVISUAL:M

M氏の告白: 矛盾を純粹培養するアイデンティティの病

2019年1月10日(木) - 1月27日(日) | 9:30~19:00

※14日、20日、27日は9:30~17:00まで
※月曜休館日(祝休日の場合は翌平日)

入場無料

名古屋市民ギャラリー矢田 第1展示室

〒461-0047 名古屋市東区大幸南 1-1-10 カルポート東4F

会場に関する問合せ | TEL:052-719-0430

展示に関する問合せ | sketchover@icloud.com

スタディ・トーク 2019年1月12日(土)

shovel#02 | 14:00- 石田 智恵(早稲田大学/日系アルゼンチン研究)
石田智恵氏の研究するアルゼンチン軍政権下の日系強制失踪者の研究を伺いながら、当時の日系社会が抱えていたアイデンティティ問題を参照し、現代の多様性について考えるためのスタディ・トーク。

shovel#03 | 15:30- 吉野 毅(立命館大学/クィア研究)
日本ではまだ馴染みの浅い「クィア理論」を通じて、既成概念から逸脱した存在を排除せず、いかに向き合い「語り得ないものを語り得ることへと導く」、その方法を考えるためのスタディ・トーク。

ファン・デ・ナゴヤ美術展2019 同時開催

「風景をみる/風景にみる」企画: 小田川祐希 | 出品作家: 丸山のどか | 第2-3展示室
「予見する人工物」企画: 韓成南 | 出品作家: 韓成南、西山修平 | 第4-7展示室

2017年、私はオランダ/デン・ハーグに滞在制作のため訪れていた。アーティストの紹介で、ある女性と会う約束をしていた。彼女は丁度展覧会に参加していて会場で落ち合うことになった。来場者に作品の説明をしているのがM氏であろうことは、初対面であるが容易に感じられたのは不思議なことだった。

M氏は韓国人で、デン・ハーグに住んでいる。まるで日本人のような慎ましい佇まいに、親近感とともに好感を覚えたのが懐かしい。作品の話聞き親しくなるにつれて、彼女の少し複雑なアイデンティティを知ることになる。穏やかな彼女の性格は、制作スタイルにも表れていて、生活と制作の持続可能な表現は、インタビューと証明写真、両親の記録写真、誰かとの映画鑑賞とそのチケットの半券、、、アーカイブの生成が時間とともに緩やかに蓄積されていく。そのひとつである両親の写真の特異性に、私の想像が感覚を失ってしまった。初めての経験だった。写っていたのは、白髪で穏やかな表情の老夫婦、人の良さそうな、しかし鼻が高く、彫りの深い白人であった。

M、、、彼女はオランダに住み、ベルギー国籍を持つ、韓国語を話さない韓国人だった。

ますます多様で複雑になる社会に、私たちが一種の困惑を覚えるのは、ただ知らないというだけなのかもしれない。

アイデンティティを巡る旅に、戻るべき場所(家)のない旅があったとしたら、旅そのものを目的(地)にして、宛もなく、矛盾を抱えたまま歩むしかないのだろうか? M氏の告白が、多様なものを引き受ける方法を知りえる手助けになるのではないだろうか?

ただ、私たちはそこで、感覚することのできない告白を聞くことになるかもしれない。

主催

ファン・デ・ナゴヤ美術展2019
「NARRATIVISUAL:M」実行委員会

公益財団法人
名古屋市文化振興事業団

協力

愛知県立芸術大学

SketchOver

協賛

後援



愛知県教育委員会
愛知県国際交流協会
中日新聞社
上毛新聞社

山中湖文学の森 三島由紀夫記念館
株式会社ZIP-FM
株式会社エフエム愛知
企業メセナ群馬



企業メセナ協議会
助成認定活動